

学校関係者評価票

学校名：医学部附属看護専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方針が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

評価項目	専門学校		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	看護技術習得に向けて、1・2年合同でグループ学習を行い根拠に基づく実践力の定着の機会としている。また、多職連携の基盤作りとして、医学部との合同講義でグループ学習を行っている。 学生による授業評価アンケート結果を元に、授業の内容及び方法の改善を図り、効果的な教育につなげている。	B	看護技術の習得に関して少人数制のグループ指導がされており、実習場での学生の自信につながる。学校施設の老朽化はあるが、学内実習教育においてTVモニター設置や最新の実習用モデル人形を使用するなど設備・教材を整備し学習環境を整えている。	解剖実習や救命救急センター見学など、体験学習を取り入れることで、学生の学習意欲が高められている。 シミュレーション人形を活用し、対象者の反応を踏まえた看護の実践学習が行われていると感じた。	指導が放課後になることが多く、学生の拘束時間の増加により、学習意欲の維持・向上に問題が生じる可能性があり、課題として取り組んでほしい。 施設の老朽化は致し方ないが、学内実習教育に必要な設備・教材を整備し、安全で教育に支障をきたさない学習環境を今後も整えていただきたい。	臨床実習で実践できない採血、注射、カテーテル挿入など、校内実習で複数回、実施・練習する機会があるとよいと感じる。	B
教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	カリキュラム検討委員会でカリキュラムの構成と整合性、各科目への反映状況を検証し、臨床の教育担当も構成員とする運営委員会においても教育内容の過不足や整合性について検証している。 また、より良い教育内容・方法を行うため、授業評価に関する委員会を平成21年度に設置し、専任教員を含む非常勤講師に対して学生による授業評価を継続している。 学生による授業評価の集計結果は、科目担当教員又は各領域間で検討し、授業内容・方法の改善を図っている。実習の授業評価は、実習場ごとに授業評価アンケートを実施している。アンケート集計結果は、実習病院の看護部長及び該当する病棟責任者にフィードバックし、実習目標達成に向けての指導方法の妥当性及び実習内容・実習環境の改善に役立っている。 さらに、授業評価に基づく「授業改善計画書」を作成し、次年度の授業内容の充実に向けた取り組みを継続している。	A	カリキュラム検討委員会で3年間を通じて、十分に検証された体系的なカリキュラムを編成し、適切に実施されていると評価する。体育の水泳授業に救命実技を組み入れるなど社会や時代に応じ学生が興味を持って授業に臨めるよう授業内容の見直し・工夫がされている。 各授業評価に基づく授業改善計画書を作成し、授業内容・方法の評価、充実に向けた取組みをしている。また、学生のアンケートによる他者評価が実施されている。その結果を授業改善や実習現場での指導見直し・実習環境の改善に繋がっており、常に質の高い教育が提供できるよう改善・向上の取り組みをしている。	各授業科目の評価は、教員のみならず学生による他者評価を実施することで、より教育の質の改善・向上につながるため今後も評価、フィードバック、改善への取り組みを継続してほしい。	科目未修得者・留年者への個別支援等を実施しているが、修業年限内での課程卒業率向上のため、引き続き取り組んでいただきたい。 臨床現場の実情をふまえて、2022年のカリキュラム改正では多様な実習方法や指導体制の工夫・改善を行っていただきたい。	特になし	A
学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	入試管理委員会及び実行委員会において募集方法、実施体制及び選抜方法・基準等を毎年審議し、入学選抜の基準を明確にしている。 入学選抜方法については、推薦・一般とともに面接を重視し、看護師としての資質、適性及び人間性を3人の面接委員で厳正に評価している。最終的に看護職に従事する者としての適性を備えた学生を入試管理委員会及び教員会で審議し、選抜している。 学生募集については、学校案内等を付属高等学校、在学生出身高等学校、近隣高等学校及び予備校宛てに500部以上発送している。また、夏期休暇時期の7・8月には学校説明会を開催し、9月から12月まで月1回の学校見学会を開催し、より多くの受験生が参加できるよう広報活動を行っている。	A	入試管理委員会及び実行委員会が設置されており、実施体制や選抜方法・基準を毎年審議し、入学選抜が公正に行われていることがわかる。 受験生が参加しやすい7月、8月に学校説明会が設けられ、また9月から12月に月1回の学校見学会を開催し、個別対応も行っており、より多くの受験生に対し受け入れる体制が整えられている。 また、入学選抜においては、アドミッションポリシーを明確に定めており、推薦・一般とともに面接を取り入れ、看護師としての資質、適正及び人間性を判断していることがわかる。	説明会のほかに見学会を頻回に設けており、より多くの学生に学校を知る機会があり継続してほしい。 学校パンフレット、Q&Aに入学選抜の詳細が記載されており分かりやすい。	特になし	収容定員を超える学生が在籍しているため、学習環境の問題などが生じる可能性がある。	A
学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	入学試験を検証する委員会（入試管理委員会）を設け、年3回開催し、入学選抜方法の適切性について点検、評価及び改善案等を検討・実施している。 委員会の構成員は、医学部の教職員が含まれているため、看護専門学校以外からの意見聴取が行える体制をとっている。 出題問題の妥当性を検証するシステムとして、科目点検者及び得点率から問題の適切性や時間等の問題分析を実施し、科目出題者に標準偏差や得点率の変化をフィードバックすることで問題の適切性を図っている。	A	入学試験を検証する委員会が定期的で開催され、入学選抜方法の適切性について点検、評価及び改善案等が検討・実施されている。また、委員会の構成員に、医学部の教職員が含まれており、看護専門学校以外からの客観的な意見聴取が行え、学生受け入れの適切性について点検・評価が行われていることがわかる。 出題問題の妥当性を検証するシステムが整えられていることが判断できる。	入学試験を検証する委員会が年3回開催され定期的な点検・評価が行われている。 科目点検者による不適切問題の事前確認が行われているため、受験生への影響がない。	特になし	特になし	A

学校関係者評価票

学校名：医学部附属看護専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

評価項目	専門学校		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見等	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	専任教員の質向上のため平成26年度から「看護教員の継続教育に関するプロジェクト」を立ち上げ、教員ラダーを作成し、看護教員の教育実践力の評価及び向上につなげている。 平成29年度から東京都私学系看護専門学校6校で授業公開及び授業見学会を実施し、他校の授業を見学することによる気づき・確認の機会を設けて、授業改善・向上につなげている。	B	教員の資質向上のための取り組みを組織が支援する体制が整えられている。他校との授業公開・授業見学会は、外部交流の場を通し授業の改善・向上につなげる活動であり、教育現場全体の質向上にもなり画期的な取り組みと言える。 教員ラダーを用いた個人の教育実践能力の評価や組織における目標管理が実施され、教員の資質向上、教員組織の改善・向上への取り組みがされている。 各教員が外部の教員研修・勉強会に積極的に参加するなど自己研鑽に励んでおり、教育者としての自覚と意欲の高さが伺える。	他校との授業公開、見学は閉鎖されがちな教育の場においては、画期的な取り組みであり、今後も継続して教員の資質の向上に役立ててほしい。	学生の教育・指導に時間を要しており、教員の資質向上のために、研究活動を保障する体制（時間的・財政的・環境的）を整える必要がある。教員の授業を他の教員が参観し、他者評価できる体制について検討していただきたい。	特になし	B
教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	看護職の専任教員は、副校長1名、主事1名、教務主任1名を含めて16名である。各教育活動にかかる係りの役割を分担し、主事が統括している。教務主任は、臨地実習の計画・調整等を行っている。本校は、保健師助産師看護師法に定められた教員数を満たしている。 円滑な学校運営を図るため、看護学校運営委員会及び教員会が設置され、各々の組織及び審議事項が明確に規定されている。 看護専門学校の専任教員の資格は、保健師助産師看護師として5年以上業務に従事した後、1年又は半年の研修を受けていることが望ましいとされている。本校では、長期研修15名、短期研修1名が教育研修を修了している。そのうち3名が管理者となるための幹部研修を修了している。 教員の年齢構成は、30～39歳が1名、40～49歳が9名、50～59歳が6名である。年齢構成に偏りがあり平均年齢48.5歳と高い。	B	運営委員会や教員会が開催され、教員組織運営の適切性について定期的に点検・評価をする体制がある。また、組織図や専任教員の役割、教員の業務内容が明文化されており、周知されている。担当を専門領域で分担することで、看護学の各専門領域を確実に指導できるようにしている。	円滑な学校運営を図るために、運営委員会や教員会で教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、組織の改善向上に向けた取り組みを今後も継続してほしい。	現在の学生の到達レベルの低さなど学生の資質に合わせた教育を行うための、教員の適正な人数の配置を検討していただきたい。また、雑務を行う事務職員等を適正に配置し、教員が教育に専念できるよう検討していただきたい。 組織構成においては、教員の平均年齢が48.5歳と高く、また年齢構成に偏りがあるため、今後次世代を担う人材育成を視野に入れた計画的な人事採用を検討していただきたい。	特になし	B
進路指導における重点目標	キャリア形成については、1年次の基礎看護概論、2年次の看護管理等で、各自のキャリアについて考える機会を与えている。 国家試験対策は、国家試験対策委員により各学年の指導計画が立案され、各学年で実施し、評価を行っている。特に3年次は、業者模試の回数を多くし、外部講師の講義もしている。学生全員の面接により国試に対する意識を高め、3年次の全実習終了後から総合試験・総合講義を行い、国家試験対策に取り組ませている。また、成績低迷者は個別指導体制をとり国試直前まで支援している。前年度の国試不合格者に対しても、定期的な連絡による情報交換、模試への参加などを促している。 就職に関しては、2年次副校長から説明、業者によるガイダンス（2回/年）、2病院の就職説明会の開催（2年次1月）、就職に関する情報提供、相談、面接・小論文指導などを行っている。進学者に対しても情報提供、相談等を受けている。2年次2月には卒業予定者からの在校生への進学・国試・就職に関する説明会を設けている。また、卒業前の3年生に向け、本校の卒業生（新卒・卒後5年目）からの就職に対する心構え等のガイダンスを実施している。	B	国家試験対策において、1年次から3年次まで詳細な指導・学習計画が立てられ、1年次から国家試験に対する意識が高められている。3年次では業者模試やガイダンスの回数を増やし、外部講師からの指導など取り入れ、実習との両立が継続できるよう意識付けが行われていることが分かる。 キャリア支援、就職に関しては2年次から具体的な計画が立てられ、早期に個々が目指す未来像を描き、取り組むことができるような体制が整っていると感ずる。	3年次には学生全員面接を行うことにより、個々の課題や不安を早期に明確にでき、また全体の意識を高めることにつながるため継続して行ってほしい。 就職に向けて、学生に一番近い立場の先輩からの説明会が設けられ、学生の不安解消や自信獲得につながっていると感ずる。	特になし	国家試験合格レベルに到達しているか知るための指標となる模擬試験の結果等は学生から保護者へ報告するよう指導されているが、保護者へは直接郵送等で知らせることができるか検討していただきたい。 卒業前の3年生を対象にした進路選定に影響した情報や就職に対する不安、将来設計と支援ニーズの実態調査の結果があると、1・2年生やその保護者の参考になるのではないかと考える。	B